

## 指定管理者評価シート

## 一 管理運営の状況

1 施設名	仙台市原町児童館
2 指定管理者	特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
3 指定期間	平成29年4月1日から令和4年3月31日まで
4 施設の利用状況	《利用者数》 25,625人（前年度比 50.6%） うち のびすく宮城野利用者 8,548人（内訳 ひろば利用者7,615人、託児利用者 933人） 令和元年度 50,638人 平成30年度 58,142人 平成29年度 55,715人
	《事業》 児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにすることを目的とした児童厚生施設としての事業
5 収支の状況	《費用》 ・ 指定管理者に支払った費用 61,710千円 （ 60,729千円） ・ その他市が負担した費用 0千円 （ 0千円） （ ）は前年度決算額
	《収入》 ・ 使用料収入 2,150千円 （ 4,031千円） ・ その他収入 5千円 （ 60千円）
6 利用者の声	《実施状況》 利用者アンケート、児童館運営懇談会、児童クラブ保護者懇談会を実施。

## 二 管理運営に係る評価

(モニタリングシートの結果によって評価)

評価分野	所見	評価
I 総則	「児童館ガイドライン」等に基づき、設置目的を踏まえた施設運営上の基本方針を定め、職員への共通理解を図るとともに、館内掲示等で利用者にも周知している。職員の倫理保持・服務規律遵守については、研修や会議、チェックシート等で確認する取り組みを行っている。また、地域の特性やニーズを踏まえながら各事業に取り組み、施設目的の達成に努めている。	33/33
II 施設の運営管理体制	職員の配置や業務内容の共有、開館の実績、経理書類の作成、個人情報の保護等について適切な管理体制が構築されている。また、各種マニュアルの整備、施設内外の点検、毎月の避難訓練等の実施により、利用者の安全に留意した運営に取り組んでいる。	30/30
III 施設・設備の維持管理	日常的・定期的な点検や清掃により、建物・設備・外構等が適切に維持管理されている。備品や鍵の管理も適切に行われているほか、施設内外の巡回や仙台市環境行動計画に則った取り組みも実施されており、安全で快適な環境が保たれている。	23/23
IV サービスの質の向上	名札の着用、児童館だよりの発行、ホームページの更新による利用情報の提供等、利用者が利用しやすい環境づくりに努めている。また、各種研修会への参加を通して職員の専門性を高めているほか、意見箱の設置、アンケートの実施等で利用者のニーズを把握し、施設運営に生かすなど、サービスの質の向上に努めている。	28/28
V 施設固有の基準	児童クラブにおいては、子ども達が安心して過ごせる生活の場としてふさわしい環境の整備と安全面の配慮が行われており、家庭や学校と情報共有を図り連携した育成支援に努めている。また、昨年度より、コロナ禍のために縮小している乳幼児向けの交流の場を工夫するなど、子育て家庭を支援するとともに、子育て支援クラブをはじめとする地域組織・団体・住民・関係機関との連携、相互交流を図りながら児童館の運営に取り組んでいる。	25/25

### 三 評価総括

《指定管理者（特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク）による自己評価》
<p>コロナ禍でスタートした今年度、感染予防対策を最優先し、年度初めには対策として早期に飛沫防止のビニールやアクリル板を設置。児童クラブ受け入れに際しても、児童への衛生指導や三密対策、新しい生活様式の定着に努め、クラブ保護者には感染リスク軽減のため玄関から入館せずソーシャルディスタンスを実践。その代わり定期的なクラブ通信の発行や玄関に活動の様子の写真掲示やお迎え時には様子を伝えるなど丁寧な対応に努めた。</p> <p>制限のある生活から子どもたちが、ストレスを抱えないよう活動を工夫し、感染が緩和された夏以降には、本館、サテライトでの行事を再開した。子育て支援クラブやグランパボランティア、地域ボランティアの活動も再開した。秋には地域町内会の協力を得て「ハロウィンパレード」や児童クラブ保護者協働で「公園に遠足に行こう」を実施し児童の満足度を高めることができた。</p> <p>のびすくは、休館中も「できる支援」を考え、コロナ禍で行き場の少なくなった乳幼児の親へ「近況を伺う電話」をしたり「手づくりおもちゃ」と子育て情報の配布を複合館や区家庭健康課、JR原ノ町駅の協力のもと行った。一定の制限下での再開以降は「安心安全な居場所の提供」を心がけ、入館時の検温やチェックリストの活用、午前午後の徹底した消毒、乳幼児親子が密にならず過ごせる環境づくりや消毒可能な手づくりおもちゃの用意等、最善の感染予防対策を講じながらの開設に努めた。2017年度から継続してきた多胎児家庭支援をきっかけに、子育てサークル「2525萩」が立ち上がった。またコロナ禍で乳幼児健診が延期になる中、子どもの発達に不安を抱えた親の気軽な相談先として、子育て相談員や利用者支援専門員が多様化した相談にできる限り応じ、必要によって区家庭健康課や関係機関と連携し子育て世代の精神的ストレス軽減と緩和に努めた。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>令和2年度は、コロナ感染症の影響で緊急事態宣言が4月に発令され、小学校が5月まで休校となったが、休校中も児童クラブの受け入れを行った。この間、乳幼児親子の自由来館及び小学生の自由来館を休止していたが、その後、乳幼児親子の自由来館は6月から平日午前のみ再開し、小学生の自由来館は10月から土曜日のみ再開した。感染症対策のための参加人数の制限や環境の工夫を行うなど様々な配慮と努力を要した児童館運営となった。</p> <p>放課後児童健全育成事業においては、館外活動である「飛び出せ児童館」を保護者協働で実施し、子どもたちの興味を捉え子どもたちがのびのびと楽しめる活動を行っている。地域交流でもある「ハロウィンパレード」では、児童館が中心となり、地域や各関係機関と連携し協力を得ながら、子ども達に様々な経験の場を提供しており評価できる。また、昨年度は特にサテライト室での行事に力を入れ、本館と施設環境が異なる中、本館と同様に工作・運動・読み聞かせなどの行事を実施し、サービス水準の確保に努めている。</p> <p>のびすく宮城野としても、乳幼児の発達段階に応じたイベント等の実施を通じて乳幼児親子が交流できる場を提供し、また、多様化する相談に応じるため、関係機関と連携して相談事業を行い、子育て家庭の不安や負担の軽減に大きく貢献している。</p> <p>また、宮城野区まちづくり推進課や地域の保育所、児童館が参加する「地域はっぴい子育てプロジェクト」のメンバーとして運営に携わるなど、積極的に地域の関係機関・団体との連携を深めていることも評価できる。</p>	S

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：子供未来局子供育成部児童クラブ事業推進課